

## 第54回 全関西高校バスケットボール交歓大会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第54回 全関西高校バスケットボール交歓大会					
●日程	令和8年3月21日 (土)		～		令和8年3月23日 (月)	
●会場	県立広島皆実高校、マエダハウジング東区スポーツセンター、県立総合体育館					
●講師	佐藤 誠 様					
●スケジュール	3月20日(金) 広島入り 3月21日(土) 予選トーナメント・リーグ 19:00～ 全体研修会 会場: 県立総合体育館大会議室 研修会テーマ「よりよいゲームを作るためのクルーワーク」 3月22日(日) 決勝リーグ進出決定戦・対抗戦 3月23日(月) 決勝リーグ・交流戦					
●担当試合	令和8年3月21日 (土) 11:20 ～					
	対戦カード	四日市メリノール学院		VS		中村学園女子
	主審(CC)	宮内 氏	副審(U1)	三富	(U2)	谷野 氏
	講師／主任	なし				
	自己の感想	両チームのフィジカルに大きな差があり、点差も開く試合だったが、最後まで明らかなケースにクルーで判定を入れていくことができていた。その中で、セカンダリとして笛を入れたケースもあったが、笛のタイミングやデリバリーを改善していく必要があると感じた。メリノールのオフェンスは、1対1でディフェンスにコンタクトをしながらショットを打つことが多かったため、レフェリーディフェンスを意識し判定することの大切さをより実感し、実践に繋げることができた。また、C/Lでお互いのアングルとエリアを信頼しながら判定することが大切だと感じた。				
●担当試合	令和8年3月21日 (土) 14:00 ～					
	対戦カード	聖カタリナ		VS		精華女子
	主審(CC)	久保 氏	副審(U1)	片山 氏	(U2)	三富
	講師／主任	なし				
	自己の感想	聖カタリナは、3Pを中心にしたオフェンスを行っていたため、PGCでは3or2のヘルプやエッジでのショットについてのメカニクスを重点的に確認した。ゲームの中でも、エッジでのショットをLが、その後のリバウンドはT/Cがプライマリとしてクルーで判定できたケースが多くあった。また、精華女子の留学生に対する聖カタリナの守り方や、精華女子の外回りの選手のディフェンスの仕方(特に手の使い方)など、IHレベルのプレーをレフェリングすることができ、非常に勉強になった。また、メカニクスの課題として、Cサイドのコフィンコーナーでプレスがかけられた際、Tとしてプレーからのチェックアウトが早く、バックパスを良いアングルで判定できなかったことが挙げられる。				

●担当試合	令和8年3月22日 (日) 13:20 ~					
	対戦カード	福大若葉 VS 聖カタリナ				
	主審(CC)	梅澤 氏	副審(U1)	三富	(U2)	山口 氏
	講師／主任	なし				
	講評	主任の配置はありませんでしたが、広島県の審判員の方々よりご講評いただきました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>絶対にコールが必要なケースについては、クルーの誰かが笛を入れることができていて良かった。ただ、その中でも、特に自分がセカンドの時の笛のタイミングについて振り返っても良いかと思う。</li> <li>多くはないが、ファールを吹いたが、マージナルにもできたのではないかというケースが1つ2つあると思うので、検討してほしい。</li> <li>2ショットの確認や交代など、クルーでのコミュニケーションがスムーズで、声を使っていたのが良かった。</li> </ul>				
自己の感想	試合の初めに、ポストやリバウンドでの手の使い方など、オフボールへのコールが続き良いテンポセットにつながった。その中で、両チームに同じようにコールができなかったケースがあったので、自分が吹いたものだけでなく、クルーとしてトラベリングやファールのセიმコールができるよう、今後トライしていきたい。センターでの細かいポジションアジャストを実践しようとしたなかで、大きく動きすぎたケースやプレーと同じ方向に動いたことで、反対にアングルを失ってしまったケースがあったため、より精査していきたい。					
●担当試合	令和8年3月23日 (月) 9:00 ~					
	対戦カード	広島皆実 VS 東海大福岡				
	主審(CC)	山本 氏	副審(U1)	日笠 氏	(U2)	三富
	講師／主任	今泉 雅敬 氏				
	講評	東海大福岡の留学生に対する広島皆実の守り方について、どこで基準を示すかが難しい試合だったと思う。留学生のオフェンスとしての手の使い方でもよくないが、そうなっている原因ははじめのディフェンスのコンタクトだと思うので、もっと早めに判定を入れた方が良かったのではないかと感じた。プレゼンテーションや立ち姿・デリバリーで工夫されていることがよく伝わってきたので、今後も継続してほしい。トレイルで3Pショットを判定するときのポジションアジャストが不十分な時があるため、たとえサドンショットであってもより良いアングルをもっと求めてアジャストしてほしいと感じた。				
自己の感想	留学生のマッチアップに対して、ボールが入る前のディフェンスの身体の寄せ方について早めに判定を入れる必要があった。プライマリがプレーを見過ぎて、リードとセンターでblargeになるケースがあったため、判定をどのようなタイミングで入れるべきか、自分自身の引き出しをより増やしていく必要があると感じた。また、留学生のオフェンスでの手の使い方については、コールするだけでなく、コミュニケーションなどのマネジメントで解決する方法もあったと思うので、今後トライしていきたい。トレイルでサドンショットだけでなく、3Pショットに対するポジションアジャストが不十分な場面が多いため、プレーを予測したポジションアジャストの精度を高めていきたい。  最後になりましたが、本大会の開催にあたって大会運営やご準備をいただきました、広島県バスケットボール協会の皆さまに御礼申し上げます。また、本大会の派遣に際してご高配を賜り、貴重な経験をさせていただきましたこと、大阪府バスケットボール協会の皆さまに感謝申し上げます。					

## 第 54 回 全 関 西 高 校 生 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第54回 全関西高校生バスケットボール大会			
●日程	令和8年3月21日 (土) ~		令和8年3月22日 (日)	
●会場	県立広島皆実高等学校 マエダハウジング東区スポーツセンター			
●講師	佐藤 誠 様			
●スケジュール	令和8年3月21日 (土)			
	開講式なし、各自割当時間に集合 10:40 PGC 11:25 コートイン・コートインスペクション 11:35 試合開始 15:30 PGC 16:50 コートイン・コートインスペクション 17:00 試合開始 19:15 全体研修会			
●担当試合	令和8年3月21日 (土) 11:35 ~			
	対戦カード	銀河学院 VS 慶誠		
	主審(CC)	久保 潤 氏(愛知)	副審(U1)	濱田希実 (U2) 深川 はるか 氏(佐賀)
	講師/主任	なし		
	講評			
	自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なファウルについては概ねコールできていた。一方で、プライマリー外でも同時になっ てしまいダブルコールが増えてしまった。</li> <li>・コールした現象についても、マージナルコンタクトが含まれていないか見極める必要があ る。</li> <li>・ゲーム全体の進行が遅れており、スピードアジャストを意識することができた。</li> <li>・ローテーションについては前半に迷いが見られたが、後半は思い切って行くことができた。</li> </ul>		
●担当試合	令和8年3月21日 (土) 17:00 ~			
	対戦カード	徳島城北 VS 龍谷富山		
	主審(CC)	久保 理恵 氏(香川)	副審(U1)	金城 宇海 氏(愛知) (U2) 濱田 希実
	講師/主任	なし		
	講評			
	自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーンでスムーズなゲーム運営を行うことができた。</li> <li>・パスを中心とした展開が多く、ローテーションのタイミングやポジションアジャストについてより 正確に細かく行う必要があると感じた</li> <li>・ショットクロック、タイマーについて訂正が必要な場面なのか、必要ではないかの判断を毎 回行うことができた。点差がついてしまったゲームこそクロック、表示物の管理を徹底して行 えた。</li> </ul>		

●スケジュール	令和8年3月22日 (日)				
	開講式なし、各自割当時間に集合 10:40 PGC 12:00 コートイン・コートインスペクション 12:10 試合開始 閉講式なし、試合終了後各自解散				
●担当試合	令和8年3月22日 (日) 12:10 ~				
	対戦カード	桜花学園		VS	東海大福岡
	主審(CC)	久保 理恵 氏(香川)	副審(U1)	三島 彩 氏(広島)	(U2) 濱田希実
	講師／主任	なし			
	講評				
	自己の感想	<p>・留学生と日本人のマッチアップにより、留学生のインテンシティが高い状況が継続していた。そのため、留学生に対するファウルの判定基準や、逆に受けているコンタクトの見極めについて、コールとコミュニケーションの両面からコントロールする必要があった。</p> <p>・一方の監督、選手とのコミュニケーションが過多となり、TFが必要なリアクションに関して適応することができなかった。</p> <p>・コミュニケーションの際にもっと簡潔かつルールにのっとった説明力が必要だと感じた。</p> <p>最後になりましたが、本大会開催にあたって大会準備や運営を行っていただきました広島県バスケットボール協会の皆様、並びにチーム関係者の皆様に心より御礼申し上げます。また、今大会派遣にあたり、ご指導いただきました審判員の皆様、大阪府バスケットボール協会の皆様に心より御礼申し上げます。</p>			

## 第 54 回 全 関 西 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第54回 全関西バスケットボール大会				
●日程	令和8年3月21日 (土)		～ 令和8年3月23日 (月)		
●会場	東区スポーツセンター、グリーンアリーナ				
●講師	佐藤 誠様				
●スケジュール	令和8年3月21日 (土)				
	12:40 実技開始 14:40 実技終了 16:40 実技開始 18:40 実技終了 19:30 講義				
	令和8年3月22日 (日)				
	13:20 実技開始 15:20 実技終了				
	令和8年3月23日 (月)				
	12:20 実技開始 14:20 実技終了 16:00 閉講式				
●担当試合	令和8年3月21日 (土) 12:40 ~				
	対戦カード	広島皆実		VS 鳥取城北	
	主審(CC)	山口 翔	副審(U1)	金城 宇海氏	(U2) 田川 流唯氏
	講師/主任	なし			
	自己の感想	<p>&lt;全体を通して&gt; 非常に若いワルで、気を遣うことなく意見を出し合うことができ非常に良かった。点差が大きく離れてしまう展開の中で、どういうゲーム運営をしていくかがポイントとなった。片方のチームはフィジカルが強く、ファウルの要素があるコンタクトがあってもプレーを継続できる。フィジカルの強さを引き出してより魅力のあるゲームにしつつ、やったものに対してしっかり笛を入れることが必要なゲームだった。</p> <p>&lt;ケース&gt; C4でクルーがアンスポを吹いてくれたケースに関して、グレードダウンしてパーソナルファウルにしたケースは、クルーの意見を尊重すべきだった。 ルーズボールでオフェンスが無理にディフェンスの前に入ろうとして起こったコンタクトによりボールが進行するオフェンスの後ろに回ってしまったことにより、クリアパスのシチュエーションではなくなったケースだと判断したが、かなり難しい説明になるため、クルーが下した判定を尊重した方が良いと感じた。 グレードダウンする時のコミュニケーションの取り方ももっと工夫する必要がある。</p> <p>&lt;メカニクス&gt; ローテーションが2回連続で行われたケースで、2回目の途中でカットが起きてトランジションになるケースがあった。積極的なローテーションをクルーの目標にしていたので、良かった。突発的なトランジションは予測できないものもあるため、それが起こった時はメカを考えるより目の前のプレーの判定に集中するべきであると感じた。</p>			

令和8年3月29日

大阪府社会人連盟審判員

山口 翔

●担当試合	令和8年3月21日 (土) 16:40 ~				
	対戦カード	広島皆実		VS	明豊
	主審(CC)	大西 空氏	副審(U1)	久保 潤氏	(U2) 山口 翔
	講師/主任	なし			
	自己の感想	<p>&lt;全体を通して&gt; 前半はスムーズに試合が進んでいたが、後半ヘッドコーチがフラストレーションを溜めるケースがあり、たびたびコミュニケーションをする場面が発生し、スムーズに試合が進まなかった。 クルーとしてプライマリをもっと意識すべきであった。 負けるチームにファウルが積まれている状況の中で、何をすべきだったかを反省する必要がある。一方のチームはわかりやすくファウルをしてしまうが、もう一方は分かりにくく絵がでにくい。このような状況の時に、無理にバランスをとりに行くことのリスクは大きい。ファウルにできるケース(説明できるケース)についてはコールしていくことで、少しでもフラストレーションを減らすことができたのではないと思う。その中で、無理にファウルをつけてしまったケースがあったので、プレーをフラットに分析してコールすべきだった。</p> <p>&lt;ケース&gt; 日本人同士のポストプレーに対してのコールがこの試合でのポイントであった。最初に仕掛けたプレイヤーが誰なのかをもっと見極める必要がある。腕を使ってポジションを取るケースについてはゲームの序盤からコールしてメッセージをした方が、クリーンにゲームが進んでいったのではないと思う。</p> <p>&lt;その他&gt; コミュニケーションに関して、かえってコミュニケーションをしてしまうことでゲームのコントロールが難しくなるケースもあるので、コミュニケーションをすることが適切かどうかは反省する必要があると強く感じた。</p>			
	令和8年3月22日 (日) 13:20 ~				
	対戦カード	福大若葉		VS	聖カタリナ
	主審(CC)	梅澤 幸治氏	副審(U1)	三富 千聖氏	(U2) 山口 翔
	講師/主任	主任の配置はありませんでしたが、広島県の方々々に好評をいただきました。			
	講評	<p>コールが必要なケースに関しては、必ず笛が鳴っていた。 コールした中で、本当に必要だったのかは映像を見て確認してほしい。 笛のタイミングについて、工夫した方がいいものもあった。 メカニクスに関しては大きな問題もなく、スムーズであった。</p>			
自己の感想	<p>&lt;全体を通して&gt; 1試合を通して、プライマリの意識を強く持つことができた。</p> <p>&lt;ケース&gt; 3Qのはじめにコールしたケースに関して、笛のタイミングが早すぎてメッセージが伝わりにくかったのもっとパシエントしていいケースだった。 イミディエイトとパシエントの使い分けをもっと工夫する必要がある。 &lt;メカニクス&gt; メカに関して、Tの立ち位置をもっと工夫する必要がある。 ロートレールを意識しすぎて、アングルを失い、判定の精度が落ちてしまうことがあった。</p> <p>&lt;その他&gt; 基本的なことの把握をもっと意識しないとけない。 チームファウルの数、選手のファウルの数それらをもっと意識して、コールに繋げるとよりゲームフローを理解したコールができると思う。</p>				

●担当試合	令和8年3月23日 (月) 12:20 ~				
	対戦カード	広島皆実		VS	京都精華
	主審(CC)	谷 隆正氏	副審(U1)	郷原 龍人氏 (U2)	山口 翔
	講師/主任	なし			
	自己の感想	<p>&lt;全体を通して&gt; 試合の中で、選手が倒れるケースが多くあった。本当に倒れるケースが何もなかったのかは動画見て反省する必要がある。セカンドリとして鳴らしてもいいケースがあった。</p> <p>京都精華の外国人選手に対する広島皆実の日本人選手の守り方がこのゲームのポイントであった。外国人のドライブに対して、正面に入りきれていないディフェンスやシリンドーを超えるケースに対して、笛をクルーとして入れることができたためクリーンでスムーズにゲームが進んだ。</p> <p>&lt;ケース&gt; シューターの着地した足の上にコンテストしたディフェンスの足が重なってしまい、二人とも転げるケースがあった。シュートは完了しているので、シュート後のファウルとしてコールしてもいいと感じた。POCについては検討するべきである。</p> <p>&lt;メカニクス&gt; Tの立ち位置で前の試合に課題があったので、工夫した。ドライブのケースに対してはTは下がりとドライブの時に面が変わって判定できないことが多いため、トレールは次の動きを意識して対応できるようなポジションアジャストする必要がある。それを意識すると少し高くなる。そうすることによって判定につなげることができたケースもあった。ドライブに対して対応しようとしてトレールの立ち位置を高くした時に考える必要があるのは、ショットや3or2への対応である。通常ショットはディフェンスをうまく剥がして、空間を作ることができた時に起こる(残り秒数が少ない時を除く)。ディフェンスとオフENSEの距離感やオフENSEが何を求めているのか、点差や展開、残分をも考えたポジションアジャストをして、より精度の高い判定に繋げていきたい。</p> <p>&lt;最後に&gt; この度は全関西バスケットボール大会に派遣していただき、大阪府バスケットボール協会審判長をはじめとする審判委員会の皆様へ感謝申し上げます。また、研修の企画運営、開催していただきました広島県バスケットボール協会の審判委員会の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>			